

# インドネシア語話者に対する日本語の子音の「つ」の発音 エラー分析

日本語・日本文化研究生

ラフマワティ・エカ・プラティウィ

インドネシア

## 1. はじめに

1.1 内容・日本語の音韻構造とインドネシア語の音韻構造

1.2 問題

1.3 対象者の情報

## 2. 目的

## 3. 仮説

## 4. 研究方法

4.1 テスト文例を作って日本語母語話者に読んでもらって録音する

4.2 データ収集

4.2.1 まず、調査対象者に録音を聞いてリピートしてもらいながら録画と録音を取る

4.2.2 次に、調査対象者に文例を読んでもらいながら録画と録音を取る

4.3 日本母語話者とのデータ結果チェック

4.3.1 日本語母語話者に録音したデータをチェックしてもらい、不自然な発音をしている部分を抽出する

4.3.2 不自然な発音がどのようなタイプの音で起きているかを考察する

## 5. 分析

## 6. まとめ

## 7. 参考文献

## 1. はじめに

### 1.1 内容・日本語の音韻構造とインドネシア語の音韻構造

外国語を学ぶ際、対象者の文字と共に学ばれることが一般的である。言語によっても音素が異なります。例えば、日本語には[this]という英語の言葉は「ジス」になることはあります。それはなぜかという、[th]の音素は日本語にはないので、一番近い音をとって使うこととなります。そのように、国際音声記号を使って、インドネシア語の音素と日本語に音素を比較して、インドネシアにはない日本語の音素を挙げます。結果は以下のようになります。

母音	子音	
ウ [u]	キ	ユ
	ク	リ
	シ	ル
	ス	ギ
	チ	グ
	ツ	ジ
	ニ	ズ
	ヌ	ビ
	ヒ	ブ
	フ	ピ
	ミ	プ
	ム	

書くときは違いが理解できないことは当然だが、話すときにはすぐわかることは多いと思う。「ウ」の音をつける文字の場合には「ウ」の発音は違うので、「ウ」の音をつける子音に影響を与える。「キ」「シ」「チ」「ニ」「ヒ」「ミ」「リ」「ギ」「ジ」「ビ」「ピ」という文字には「イ」の音をつけるのに少し違いがある気がする。

## 1.2 問題

日本語の音韻構造とインドネシア語の音韻構造の結果の中に、[ts] という音素はインドネシア語にはないのですから、本研究で、「つ」の発音エラーを分析することにします。本研究では、インドネシア語に日本語の発音である子音の「ツ」について行う。「ツ」の発音がある言葉を利用したら誤解になりやすいのである。インドネシアで日本語の教師として、学習者を指導する際には、インドネシア人の日本語の発音の問題を調べておくことはとても有意義だと思う。

## 1.3 対象者の情報

対象者は15人のインドネシア人であった。日本語レベルは、日本語の初級者に限定した。対象者の母語も偶然2つに分けて、スンダ語話者とジャワ語話者である。

## 2. 目的

本研究の目的はこの発音エラーの原因を確かめることである。まず。母語から影響を得るかどうかを確認しようと思う。それから、前の子音の音から影響が合うかどうかも確かめる。次は、それは発音の問題なのか、それとも、聞き取りの問題なのかを確認する。

## 3. 仮説

その問題を見ると、仮説はこのようである。インドネシアには民族によってインドネシア語だけではなくて、母語として様々な言語もある。なので、母語から影響があるかもしれない。前の音から影響があると思う。「つ」の音素は二つだけあるので後ろの音は必ず「う」の音が出てしまうので、後ろの音は関係がないと思う。それから、この問題は聞き取るの問題だと思う。なぜか

というと、読む際には気を付けてゆっくり読めるので発音するときにも気を付けることができるので発音が間違いになる可能性が低いだそうである。

#### 4. 研究方法

調査方法では、まず、テスト文例を作って日本語母語話者として読んでもらって録音した。テスト文例は以下のようである。

1. つくえのしたに かばんと くつが あります。
2. せんしゅう、 まえばしまつりに いったの？
3. めんせつは いつですか。
4. きょう、 おつかれさまでした。
5. つめたいかぜが ふいている。
6. なつといえは あついですね。
7. みずは すこしずつ 入れてください。
8. 「ひみつ」という しょうせつは よめば よむほど おもしろくなる。
9. それは ひとつの りゆうです。
10. そのりょうりは さとうのかわりに、 はちみつを つかいます。
11. さくらのはなが うつくしいですね。
12. にもつ もちましようか。
13. あした、せつめいかいが あるらしい。

この文例は6種類で作った。最初は、「つ」の前に母音が無い言葉である。それは、つくえ、つめたい、つかいます、という言葉である。そして、「あ」の母音がある「つ」である。まつり、なつ、あつい、になりました。それから、「つ」の前にある「い」の母音である。いつ、ひみつ、はちみつ、を選んだ。「う」の場合には、くつ、ずつ、うつくしい、である。「え」の場合には、めんせつ、しょうせつ、せつめい、である。「つ」の前にある「お」の母音の場合には、おつかれ、ひとつ、にもつ、という言葉を選んだ。

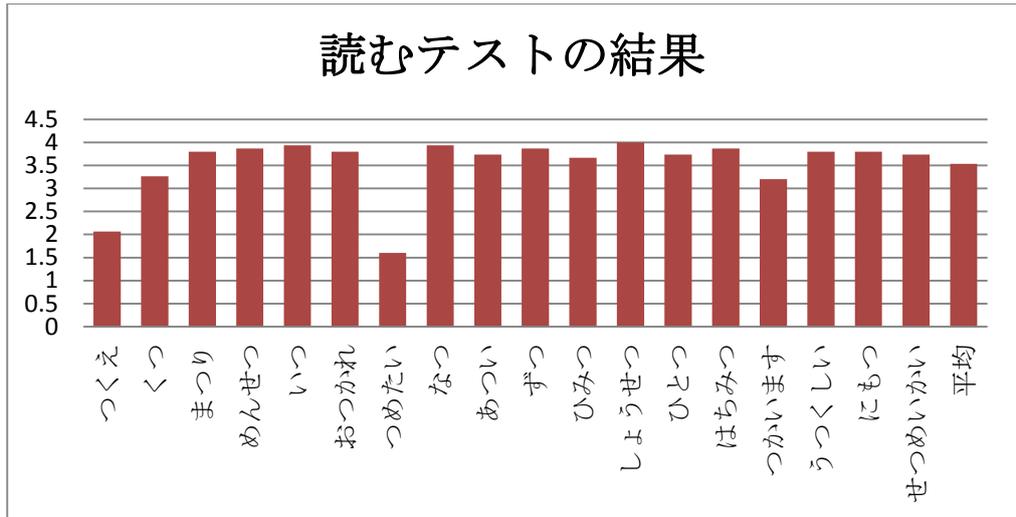
次は、調査対象者にその録音を聞いてリピートしてもらいながら録画と録音を取ることにした。その後、調査対象者に文例を読んでもらいながら、録画と録音を取った。データが集まってから、日本語母語話者として日本人にデータをチェックしてもらい、不自然な発音をしている部分を走査した。不自然な発音から聞こえる発音を書きなおしてもらった。チェックが終了した後で分析する。

## 5. 分析

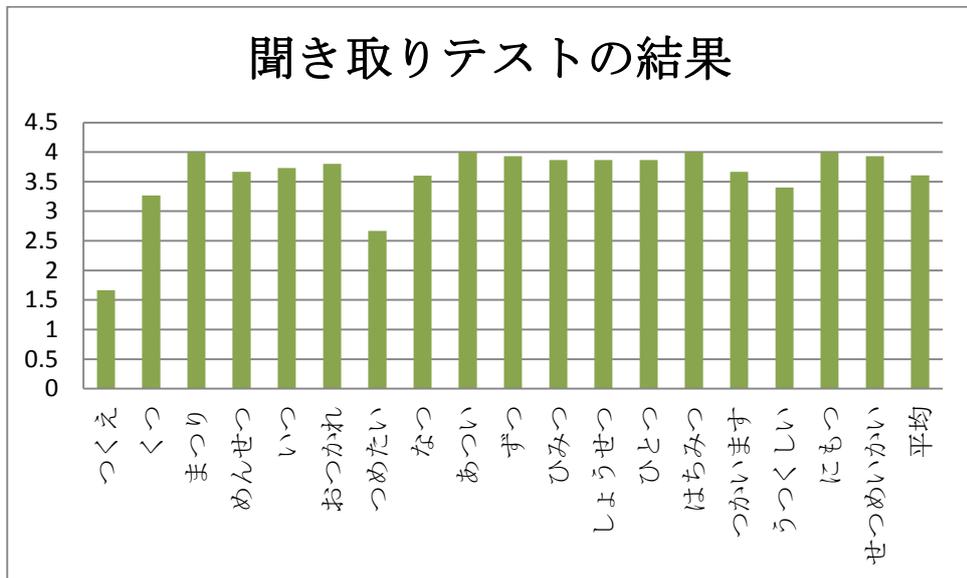
収集したデータが4人の日本語母語話者にチェックしてもらった。録音とビデオから対象者としてインドネシア人の発音を一つずつチェックし、日本語母語話者による不自然の発音をマークをし、聞こえる発音を書きなおしてもらった。その後、チェックしたデータから日本語の子音の「つ」だけを走査しておいた。「つ」をついている言葉にポイントを与えることにした。

ポイントを与える場合はもし4人の日本人はみんなある言葉に「つ」の発音が正解だと賛成したら、その言葉に4ポイントを与える。それから、1人の日本人が発音が正解だと反対したら、ポイントは3ポイントになる。もし、発音が正解だと2人の日本人は反対で、2人は賛成だとしたら、その言葉に2ポイントを与える。3人の日本人がその言葉の「つ」の発音が不正解だと思ったら、1ポイントを与える。最後に、この4人の日本人がその言葉の「つ」の発音が不正解だと賛成したら、ポイントは0ポイントになる。15人の対象者のポイントから平均を取ることにした。このようなポイントの与え方は聞き取りのテストと読むテストのデータにも使用する。

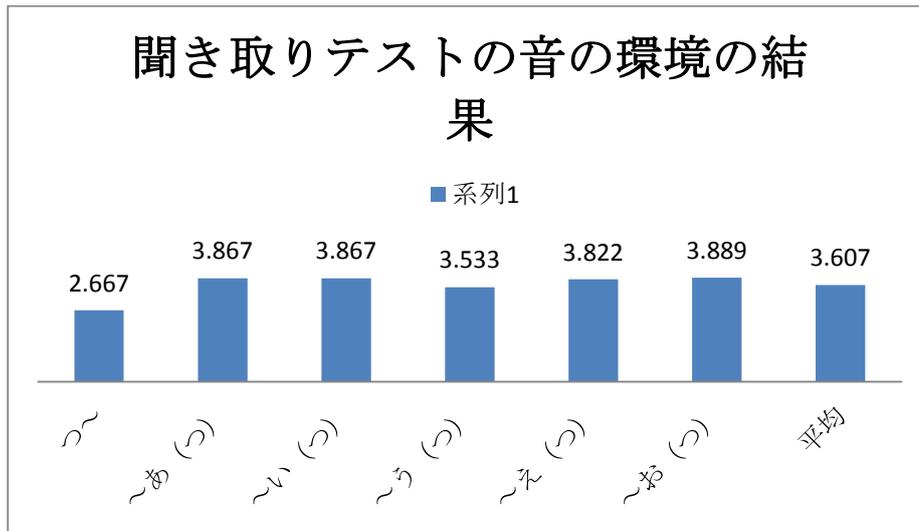
こちらは読むテストのデータチェックの結果である。読むテストの平均は3,537であり、平均に基づいて、「つくえ」、「くつ」、「つめたい」、「つかいます」という言葉には「つ」の発音がよく間違っているということが分かってきた。「つくえ」の言葉のポイントは2,067で、「くつ」のポイントは3,267であり、「つめたい」のポイントは1,6であり、「つかいます」のポイントは3,2である。



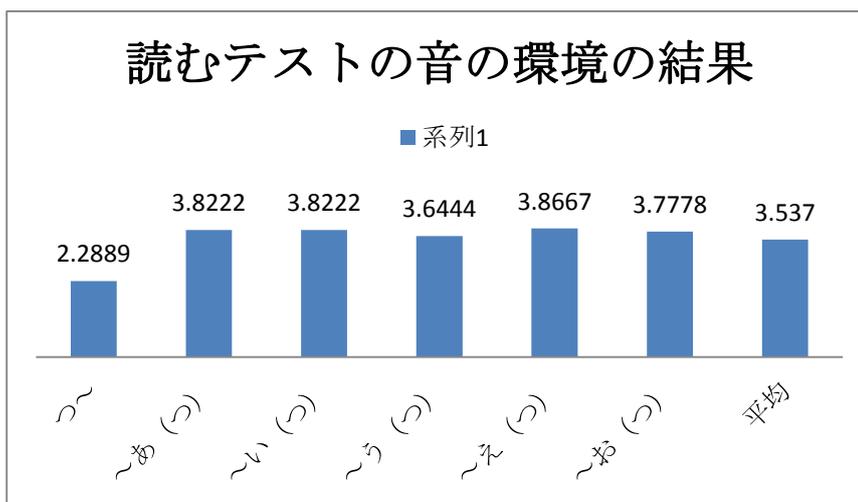
このグラフは聞き取りのテストのデータチェックの結果を示す。聞き取りの結果のポイントの平均は 3,607 である。平均の以下のポイントを走査し、「つくえ」のポイントは1,67で、「くつ」のポイントは3,267で、「つめたい」のポイントは2,67で、「なつ」のポイントは3,6で、「うつくしい」のポイントは3,4である。



音の環境による結果はこちらである。聞き取りのテストの場合には「つ」の前に音がないときは満点の 4 ポイントから 2.667 ポイントをもらい、とても間違いやすいということが分かった。次は、「う」の音が出る「つ」の文にも結構まちがったときもある。



聞き取りのテストのように、読むテストの場合にも前にはない音の「つ」間違ってしまうときは多かった。



結果に基づいて分析はこのようになった。母語にかかわらず、ほとんどおなじところで間違ってしまうので、母語からの影響はなさそうである。それから、結果からみると「つ」の前の音の影響があることが分かった。「つ」の前に母音や子音がなければ、発音が間違いやすいことも分かってきた。「つくえ」「つめたい」「つかいます」を発音するとき、[ts] の[t] を縛る音はないので[s]だけ残って「す」になってしまうときはよくあった。

「つかいます」という言葉の場合には読むテストの結果と聞き取りの結果を見ると、違いが表している。聞き取りテストのほうがポイントが高い。読むテストの際に、対象者の日本語のレベルは低いいため、文を読まずに、言葉を一つずつ読むようになった。「つかいます」の言葉には前に母音の「お」の音があるが、それはほとんど影響がないと思う。なぜかという「を」を読んだ後に、全員がポーズを入れて、「つかいます」をつづけた。対象者の日本語のレベルが変わると、結果も変わると思う。「つ」の発音をするとき、音の環境によっていろいろな「つ」と近い音が出てきた。例えば、「す」、「ちゅ」それから 英語の[two]も 出てきた。「す」になってしまうことが多かった。

最後、聞き取りのテストと読むテストの結果によると、予想通り、聞き取りの問題である。

## 6. まとめ

日本語の「つ」の発音が間違ってしまうことに、同じところで間違ってしまうため、母語の影響はあまりないということが分かった。それから、前の子音の影響があります。そのうえに、前にある音も影響を与えます。最後に、これは聞き取りの問題だということが分かった。

インドネシアで私の専攻は日本語教育なので、この研究は音声指導に役立てたい。母音の無声化は調査が複雑になりすぎるので、今回は行わないことにする。こんかい調査できなかったことは今後の課題にしようと思う。発音の正しさもちゃんと調べたいと思う。

## 7. 参考文献

<http://www.studyindonesian.com/lessons/pronunciation/>

<http://daijirin.dual-d.net/extra/nihongoon.html>